

商工労働部 マネジメント方針

商工労働部では市長との政策協議のもと、次のとおり基本方針・組織目標・行動目標を定めました。この方針に基づき目標の達成に向け着実に取り組みます。

平成 30 年 4 月 1 日

商工労働部長 港 道 則 男

【基本方針】

企業立地戦略に基づき、企業の立地を推進し雇用と就業機会の創出に努めるとともに、中小企業・小規模事業者や創業者に対してニーズに即した支援を行いながら、地域産業の競争力向上を図ります。併せて、リノベーションなど民間主体のまちづくり活動と連携しながら中心市街地の活性化に取り組むとともに、オール福井体制で商圈の維持・拡大に取り組むなど商業の振興を図ります。

地方の労働力不足が深刻化する中、若者、女性、高齢者など、誰もが安心して働けるまちを目指します。

福井国体・障スポ大会開催や北陸新幹線福井開業などの観光誘客拡大の好機を最大限に活かすため、観光文化局は、本市の観光と文化を融合させて、福井ならではの体験・体感メニューを磨き上げ、効果的なプロモーションを実施します。また、コンベンション誘致強化のため、拡充される開催助成金のPRや組織体制の見直しを行います。さらに、観光振興計画や福井・永平寺周遊滞在型観光推進計画に基づく二次交通の充実や観光地の魅力向上、インバウンド誘客に取り組み、観光客の滞在時間の延長や交流人口の拡大につなげていきます。

加えて、文化芸術の振興を図り、豊かな文化や歴史、自然をふるさとの誇りとして継承・活用し、魅力ある観光地域づくりにつなげます。

【組織目標】

- ・ 中小企業者や創業者への支援及び企業立地を推進し、地域の商工業の振興を図ります
- ・ 中心市街地における商機能等を充実し、賑わいの創出を図ります
- ・ U・Iターン就職の促進や就労機会の創出を図るとともに、仕事と家庭が両立できる雇用環境づくりを推進します
- ・ 公営競技事業において新たな顧客の獲得と収益確保に努めます

<観光文化局担当>

- ・ ()食や自然・歴史など福井らしさで観光客を増やします
- ・ ()福井の魅力磨き、市民や観光客が福井の魅力にふれる機会を増やします
- ・ ()様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます
- ・ ()多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、インバウンド誘客の強化を図るための環境を整備し情報発信を進めます
- ・ ()文化芸術活動を支援するとともに、文化や歴史、自然を活用した観光誘客を進めます

【行動目標】

- ・中小企業者や創業者への支援及び企業立地を推進し、地域の商工業の振興を図ります

1 商業の振興

市内商業者の商圈維持・拡大のため、商業者や商業施設の情報をより効果的に消費者に発信できるように「オールフクイLINE@」の強化を図ります。

オールフクイLINE@会員登録数	：	10,000人（年度末まで）
------------------	---	----------------

2 企業立地の推進

福井市企業立地戦略に基づき、本市の産業の発展に資する効果的な企業立地施策に取り組みます。

県外企業に対し、東京事務所と連携して展示会への出展や企業訪問を行うなど、様々な機会を活用して本市の強みを発信し誘致を図るとともに、市内企業に対しても、企業との情報交換や関係強化に努め、規模拡大に対応した企業立地を推進します。

企業立地支援指定数	：	13件（29年度）	14件（30年度）
企業の状況把握のための訪問数	：	408社（29年度）	420社（30年度）

3 高付加価値のものづくり・販路開拓の支援

研究開発や販路開拓といった市内の中小企業者が求める支援を行い、中小企業者の前向きな取組を後押しします。中小企業者の人手不足の解消を図るための労働生産性を向上させる設備投資や、ものづくり企業が新技術、新製品の開発をする際の産業財産権の導入に対して重点的に支援を行うとともに、本市産業を牽引していくような事業に対して継続的に支援を行います。

特に、本市の基幹産業である繊維産業については、新技術、新製品の開発や国内外への販路開拓の取組に対して、重点的な支援を行います。

また、市内企業の優れた製品や技術力を紹介するため立ち上げた「福井市ものづくり企業縁活サイト」については、登録企業に対して有益な情報を発信するとともに、サイト登録によるメリット増大を図り、登録企業数の増加に取り組みます。

ものづくり・販路開拓・人材育成設備投資等への支援件数	：	62件（29年度）	75件（30年度）
新技術、新製品の開発に対する支援件数（累計）	：	5件（29年度）	6件（30年度）
繊維関連事業者の国内外での販路開拓に係る商談成立件数	：	1件（29年度）	5件（30年度）
ものづくり企業縁活サイト登録企業件数	：	142件（29年度）	200件（30年度）

4 起業家創出の促進

本市における産業の活力を高めるため、創業に対しては慎重な姿勢が見られる中でも、創業の動きを活性化していく必要があることから、福井市創業支援事業計画に基づき、認定連携創業支援事業者（福井商工会議所、NPO 法人アントレセンター）や市内金融機関等との連携強化を図ります。

また、特定創業支援事業の受講者やビジネスプランコンテストの最終プレゼンテーション実施者など、創業意欲が高く、地域の課題解決や事業の発展性が見込める事業者を対象とした「熱意ある創業支援事業」を実施することで、本市の産業振興に寄与する創業への支援体制を充実します。

さらに、事業承継については、税理士等の専門家を対象とする実践的なセミナーの開催や、県の事業承継ネットワーク及び事業引継ぎ支援センターとの連携を密にすることによる相談体制の充実など、取組の強化を図ります。

市内での創業者数	:	76人（29年度）	100人（30年度）
事業承継相談件数	:	5件	
事業承継セミナーの開催	:	2回（29年度）	3回（30年度）

5 農商工連携の推進

「ふくいの恵み」の新規認定により品数を増やし品目を充実させるとともに、「おいしいふくい条例」の普及啓発や、「ふくいの恵み」認定商品の認知度向上を図る市内百貨店での「おいしいふくい大博覧会」の開催、東京事務所・農林水産部と連携した首都圏での物産展の実施などにより、福井の食の普及、振興に取り組みます。

また、県外での販路拡大を図るため、首都圏での物産展や県外の展示会などを通じて、県外の新たな取引先の獲得を目指します。

市内百貨店での物産展の開催	:	6月	
「ふくいの恵み」認定商品販売額	:	265,397千円（29年度見込み）	350,000千円（30年度）

6 金融・経営支援の充実

金融機関に対し融資制度を周知することで利用促進に努めます。

また、金融機関等との情報交換により、中小企業を取り巻く環境や個別の経営動向を把握しながら、中小企業者が利用しやすいよう融資制度の充実を図ります。

さらに、中小企業者の経営改善を支援するため、経営専門指導員によるフォローアップや、関係機関と連携した経営力向上事業に継続して取り組みます。

金融機関に対する融資制度説明会の回数	: 5回	
金融機関及び経済団体等との情報交換回数	: 29回(29年度)	35回(30年度)
中小企業者へのフォローアップ件数	: 160件(29年度)	165件(30年度)

・ 中心市街地における商機能等を充実し、賑わいの創出を図ります

7 新まちなかにおける民間主体の賑わいづくりの促進

西武福井店横アップルロードやガレリア元町アーケードなどまちなかの公共空間を活用し、民間が主体的に行う、オープンテラス及び周辺商業者と連携した賑わいイベントなどの取組を支援することで、まちなかの賑わいづくりと回遊性の向上を促進します。

まちなかの公共空間を活用したイベント開催	: 20回
アップルロード及びガレリア元町の歩行者通行量()	: 8,000人

アップルロード及びガレリア元町の歩行者通行量

上記2地点における7、10月の休日それぞれ一日当りの歩行者通行量の平均値

(28、29年度の平均値:7,550人)

8 リノベーションによるまちづくりの推進

老朽化した遊休不動産を有効活用し、地域の価値向上を図るリノベーションによるまちづくりを推進するため、既にリノベーションを行っている方を中心に、地域住民、不動産所有者、商業者等で構成されたリノベーションネットワークが行う、担い手を育成するセミナーの開催やリノベーション事業の計画策定に向けた実践型ワークショップ等の取組を支援し、地域に貢献する出店につなげます。

まちなか地区におけるリノベーションの件数(累計)	
	: 10件(29年度) 13件(30年度)

- ・ U・Iターン就職の促進や就労機会の創出を図るとともに、仕事と家庭が両立できる雇用環境づくりを推進します

9 U・Iターン就職の促進

学生向けの事業として、市内企業で働く魅力について考えるふくいU・Iターンサマーキャンプ、企業訪問ツアー、経営者との座談会、合同企業説明会を開催します。また、保護者からの情報提供や意見が学生の就職活動に与える影響が大きいことから、保護者を対象とした就活応援セミナーや個別相談会を開催します。

社会人向けの事業として、移住を検討している家族を対象に、企業訪問や生活環境の紹介を組み合わせたツアーを開催します。開始時期を6月に早め、回数を前年度の8回から25回に大幅に増やすとともに、1泊2日の日程を1日だけの参加も可能とするなど参加しやすいよう工夫します。また、U・Iターン者を雇用する企業に対し雇用奨励金を支給し、U・Iターン就職を促進します。

就職支援サイト「ふくいおしごとネット」のリニューアルやインターネット広告の導入により情報発信を充実させます。また、東京事務所やハローワークなど県外の関係機関と連携するほか、県外大学との就職支援協定の活用により、県外における事業の広報や参加者募集を強化します。

U・Iターン就職促進事業を利用して就職した学生及び社会人の数	:	49人(29年度)	60人(30年度)
ふくいおしごとネットのリニューアル	:	7月	

10 就労機会の創出

国のトライアル雇用やキャリアアップ助成金等を活用し、若者や女性を継続して正規雇用する中小企業に対し、奨励金等を支給し雇用の安定化に取り組みます。

キャリアアップを目指す女性を対象とした就職支援セミナーや、ハローワーク福井と連携したミニ面接会を開催します。

福井市シルバー人材センターの事業を支援し、高齢者の就労及び社会参画を促進します。

就職支援事業を利用して就職した若者及び女性の数	:	110人(29年度)	120人(30年度)
シルバー人材センター会員の就業率():		78.0%(29年度)	78.5%(30年度)

シルバー人材センター会員の就業率(就業者数/シルバー人材センター会員数)

平成29年度実績 $1,695/2,172 = 78.0\%$

平成30年度目標 $1,706/2,172 = 78.5\%$

1.1 ワークライフバランスの推進

ワークライフバランスの重要性や必要性について事業主の理解を深めるため、雇用管理セミナーや中小企業雇用促進相談員による企業訪問を実施します。

また、労働時間の縮減や柔軟な働き方の導入、育児・介護と仕事の両立支援、イクボス（ ）の養成など、働きやすい職場環境の整備に取り組む市内中小企業等に対して支援します。

ワークライフバランス推進事業による支援企業数

： 35件(29年度) 40件(30年度)

イクボス

職場で共に働く部下の仕事と生活の両立を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のこと。

・公営競技事業において新たな顧客の獲得と収益確保に努めます

1.2 競輪事業の継続

全国的に昼間開催からナイター競輪開催へとシフトする傾向があり、今年度はG 及びG グレードの一部もナイター開催への変更が決定（ 1 ）していることから、福井競輪場でもナイター場外発売（ 2 ）の拡充にさらに取り組み、売上額の増加を図ります。

また、競輪場への来場や新規競輪ファンの獲得を促進するため、ショッピングセンターや中心市街地での出向宣伝、各種イベント等を積極的に実施し、PRに努めます。

ナイター場外発売に係る車券売上額 ： 224,251千円(29年度) 310,000千円(30年度)

1 平成30年度に新たに増加するナイターG 、G 開催
競輪祭（G ）6日間、函館記念（G ）4日間×2開催

2 ナイター場外発売

他の競輪場が開催するナイター競輪車券を福井競輪場で発売すること。

・()食や自然・歴史など福井らしさで観光客を増やします

1.3 観光産業の振興

観光産業の振興を図るため、引き続き福井市観光振興計画に基づき、関係部局が連携して各種施策に取り組みます。

特に、平成30年度は北陸新幹線福井開業に向けた「プロモーションイベント実施計画」の策定に向けて、効果的なプロモーションやイベント等の検討を行います。

また、コンベンション誘致については、県や他市町と連携を図りながら、31年度開催分から拡充される開催助成金制度の周知に努めるとともに、誘致拡大に向け組織体制の見直しを行います。さらに、31年度に開催予定の第32回宇宙技術及び科学の国際シンポジウム（I S T S）に向けては、おもてなしの充実や受入態勢の整備を進めます。

体験交流型観光については、観光に訪れた方が五感で体験交流を楽しめるよう、飲食店や観光施設などと協力して、魅力的な観光メニューの充実を図るとともに、市内全域で楽しめるイベント「まち旅博覧会」を福井国体・障スポ大会の開催時期にあわせて開催し、市内での宿泊や滞在時間の延長、観光消費額の増加につなげていきます。

体験交流型観光メニュー数	: 20個(29年度)	30個(30年度)
市内宿泊者数	: 71万人(29年)	74万人(30年)
市内観光消費額	: 260億円(29年)	270億円(30年)
市内コンベンション開催件数	: 110件(29年度)	135件(30年度)

I S T S (International Symposium on Space Technology and Science)

国内外の宇宙分野の研究者等が日本に一堂に会し、研究発表や討論を実施するシンポジウム

1.4 「一乗谷」への観光誘客と一乗谷朝倉氏遺跡の環境整備

日本で唯一、戦国期の城下町跡がそのまま残る日本最大の中世都市遺跡「一乗谷朝倉氏遺跡」のイメージアップを図るため、一乗谷ディスカバリープロジェクトメンバーによる情報発信を進めます。

日本一の戦国城下町のフィールドミュージアムを目指し、時代衣装を身に着けたパフォーマーによるおもてなしや、特に、福井国体・障スポ大会期間中は、復原町並エリアを越えて時代衣装を着付け体験サービスを実施し、体験交流型観光メニューの充実に努めます。

また、新たに「福井・永平寺周遊滞在型観光推進計画」に基づく酒蔵周遊事業や、一乗谷・永平寺のライトアップ事業などを実施するとともに、一乗谷朝倉特急バスの通年運行により二次交通の充実を図ることで、一乗谷・永平寺エリア全体の魅力向上につなげます。

併せて、一乗谷朝倉氏遺跡の重要な遺構を後世まで保存しその魅力を観光客に伝えるため、管理及び環境整備を行っていきます。

時代衣装を着付け体験サービス利用者数	: 971人(29年度)	1,350人(30年度)
一乗谷観光客入込数	: 80万人(29年)	110万人(30年)

15 「まちなか」への観光誘客

「ふくい桜まつり」や「福井フェニックスまつり」、春と秋の愛宕坂灯の回廊、県内全域で開催される「幕末明治福井 150 年博」などのイベントを活かしたまちなかへの観光誘客を推進し、交流人口の増加を目指します。また、北陸新幹線福井開業に向けて、桜まつり期間中の灯りの演出など、夜間景観の魅力向上にも積極的に取り組みます。

さらに、まちなかの観光における交通機能の充実のため、足羽山やグリフィス記念館、養浩館庭園等を結ぶ「まちなか観光周遊バス」を運行し、福井駅を基点としたまちなかの周遊を促進します。

足羽山については、新鮮な情報を引き続きホームページやSNSで発信するとともに、市民と協働して足羽山の魅力を伝えるイベントを開催して、誘客を推進します。

まちなか観光客入込数	: 153 万人 (29 年)	159 万人 (30 年)
観光案内所案内人数	: 72,780 人 (29 年度)	75,000 人 (30 年度)

16 「越前海岸」への観光誘客

北陸新幹線福井開業に向け、越前海岸の伝統行事や風習、越前がに、水仙畑をはじめとする四季の風景を撮影し、プロモーション動画やポスターを作成することで越前海岸の魅力を情報発信するとともに、海開きにあわせた集客イベントを実施して、越前海岸への誘客につなげます。

また、地域で観光のまちづくりに取り組む団体を支援し、若者と連携することで、越前海岸の豊富な地域資源を活かした体験交流型観光メニューの造成に引き続き取り組みます。

さらに、日本海ならではの景観や新鮮な食、伝統行事などは、周辺市町と連携した取組を行うことで、越前海岸エリア全体の魅力向上につなげていきます。

越前海岸の体験交流型観光メニュー数	: 5 個 (29 年度)	6 個 (30 年度)
越前海岸観光客入込数	: 46 万人 (29 年)	53 万人 (30 年)

- ・ ()福井の魅力を磨き、市民や観光客が福井の魅力にふれる機会を増やします

17 おもてなしの心の醸成

本市を訪れる多くの観光客が「再び訪れたい」と思うような観光のまちづくりを進めるため、おもてなしの心の醸成や観光関連事業者等の資質向上を図り、観光客を温かく親切に迎える「観光おもてなし市民運動」を市民総ぐるみで進めます。

今年は福井国体・障スポ大会が開催されるため、国体に関わるボランティアの方やタクシー乗務員の方を対象とした講習会や研修会を行います。また、おもてなし運動推進の牽引役となる「観光おもてなしマイスター」向けの研修も実施し、マイスターの観光知識及びお客様対応力のレベルアップを図ります。

さらに、春から秋にかけて「幕末明治福井 150 年博」が開催されるため、歴史ボランティア「語り部」の活動を引き続き支援するとともに、新たなガイドルートを開発し、市民や観光客がガイドとともに名所旧跡を気軽に訪れて、福井の歴史を学ぶことができる機会を増やします。

福井市を訪れて良かったと感じた人の割合	： 92.4% (29年度)	93.0% (30年度)
「語り部」による案内人数	： 11,100人 (29年度)	11,200人 (30年度)

福井市を訪れて良かったと感じた人の割合

(市に好意的な意見の数 / おもてなし体験だよりの意見の数)

平成 29 年度実績 157 / 170 92.4%

平成 30 年度目標 市に好意的な意見の数 / おもてなし体験だよりの意見の数 93.0%

18 観光施設の整備

足羽川桜並木などの観光地の美化や、観光トイレなどの施設を安全・快適に利用してもらうための維持管理に努めます。併せて、観光トイレの洋式化を進めます。

また、美山森林温泉みらくる亭について、平成 29 年度に策定した基本計画に基づき、大規模改修工事のための基本設計・実施設計を行います。

観光トイレの整備	： 1カ所
美山森林温泉みらくる亭大規模改修工事基本設計・実施設計	

・() 様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます

19 観光情報の発信

観光パンフレット、テレビや新聞等の情報発信に加え、首都圏の駅で福井のPRポスターの掲出を行い、観光誘客を図ります。

また、ホームページやフェイスブックでの情報発信、フィルムコミッション事業(1)によるテレビや映画などの撮影支援を通して、ふくいの魅力発信を行います。

県外での出向宣伝や営業では、イベント参加者や旅行会社、出版社に福井の旬な情報を提供するとともに、旅行関係事業者との人的ネットワークを構築することで、福井の認知度向上や旅行ニーズの把握、旅行商品の造成につなげます。特に首都圏での営業は、東京事務所と連携を密にして取り組みます。

さらに、福井市観光大使(2)や福井市宣伝隊長「朝倉ゆめまる」の積極的な活用により、福井の魅力的な観光資源を周知し、本市のイメージアップを図ります。

観光関連新聞記事の掲載面積	: 62,425 cm ² (29年度)	63,000 cm ² (30年度)
出向宣伝や旅行会社への営業、商談会への参加	: 204回 (29年度)	210回 (30年度)
朝倉ゆめまるフェイスブックでの情報発信回数	: 188回 (29年度)	190回 (30年度)

1 フィルムコミッション事業

映画・テレビドラマ・CM等の映像作品の撮影が円滑に行われるための支援を行う事業

2 福井市観光大使

本市の観光資源を紹介し、観光振興とイメージアップを図る大使

(前川 清氏、パッケン氏、清水 邦広氏、津田 寛治氏)

・() 多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、インバウンド誘客の強化を図るための環境を整備し情報発信を進めます

20 国際交流の活用と多文化共生のまちづくり

市やふくい市民国際交流協会が行う姉妹友好都市交流事業や多文化共生事業を通して、市民の国際理解を深め、日本人市民も外国人市民も安心して暮らせる地域づくりを進めます。

また、福井市国際文化交流大使(FCA)が、準備の段階からイベントやまつりに参加するなど、地域との交流を通して国際理解を進めるとともに、観光資源の取材も行いながら、SNSにより本市の魅力国内外に発信していきます。

市及びふくい市民国際交流協会が実施する国際交流事業等への市民の参加者数	: 5,980人 (29年度)	6,100人 (30年度)
内訳 国際交流・多文化共生事業の参加者数	: 5,183人 (29年度)	5,200人 (30年度)
ジュニア大使派遣・受入事業の参加者数	: 797人 (29年度)	900人 (30年度)
福井市国際文化交流大使の地域活動等派遣	: 5地区	

FCA (Fukui City International Cultural Ambassador)

姉妹都市(アメリカ合衆国ニューブランズウィック市・フラトン市)から招へいした青年を国際文化交流大使として任命し、姉妹都市交流や市民への国際理解活動、本市の魅力発信事業などに従事。

2 1 インバウンド誘客の強化

外国人観光客を本市に呼び込むため、親日家が多く、訪日リピーター率も高い台湾とタイを対象に旅行博への出展や営業活動を行うとともに、日本文化への関心が高いフランスにおいても、クレア（ ）パリ派遣職員と連携して、ジャパンエキスポ・パリへの出展をはじめ、営業活動や情報発信を行います。

また、個人旅行化が進み、WEBでの情報収集が主流となっている現状をふまえ、台湾でよく利用されている観光情報サイトで情報発信を行い、本市の知名度を向上させ、誘客につなげます。

あわせて、外国人観光客の受入環境を整備するため、通訳ボランティアの育成や、市内事業者のメニュー、パンフレットの外国語表記支援に取り組みます。

外国人宿泊者数（市調査）	： 15,800人（29年）	16,500人（30年）
通訳ボランティア育成事業の参加者数	： 156人（29年度）	160人（30年度）

クレア（一般財団法人 自治体国際化協会）

自治体に取り組む課題について、国際的な視野に立った戦略・事業運営を支援する組織

- ・（ ）文化芸術活動を支援するとともに、文化や歴史、自然を活用した観光誘客を進めます

2 2 文化芸術活動の交流促進と文化会館の再整備

市民が文化的な環境の中で生きる喜びを見出せるよう、文化会館等での芸術鑑賞や体験事業の充実を図るとともに、本市のさらなる文化振興に向け、各種文化団体の活動を支援します。

福井市民文化祭では、主催である福井市文化協会と連携し、人気が高い体験コーナーの充実や子ども展示コーナーの設置、広報の強化により、市民が文化芸術に出会い親しめる機会を増やすとともに、文化活動の交流を促進します。

また、文化芸術活動の拠点施設である文化会館の管理・運営を適切に行うとともに、新文化会館の建設に向け、民間活力（PFI）導入の適否を判断し、整備手法を決定します。

福井市民文化祭参加者数	： 6,356人（29年度）	7,150人（30年度）
文化会館利用者数	： 80,173人（29年度）	100,000人（30年度）
新文化会館整備手法の決定		

2.3 まちなか文化施設の魅力向上と情報発信

養浩館庭園では、地元住民やボランティア、関係団体との協働により、御茶席や伝統文化をテーマとした体験事業、気軽にくつろいでいただくための庭カフェ開設、夜間のライトアップなどを実施し、庭園の魅力向上を図ります。

橘曙覧記念文学館と愛宕坂茶道美術館では、「幕末明治福井 150 年博」に合わせ、橘曙覧や松平春嶽、橋本左内等を紹介する特別展や、ゆかりの地を巡るガイドツアーや歴史講座等を開催し、福井の魅力を発信します。

グリフィス記念館では、前年度作成した「グリフィス御伽噺」を活用した朗読会や、化学遺産に認定されたグリフィスの講義録「化学筆記」に関する展示など、グリフィスの功績を知ってもらう事業を実施し観光誘客を図ります。併せて、記念撮影会等での利用促進を図ります。

また、旅行会社等への施設やイベント等のPRを強化することで観光誘客を図ります。

文化施設（ ）入場者数	： 96,094 人（29 年度）	113,190 人（30 年度）
幕末明治福井 150 年博関連事業開催数	： 5 回	

文化施設 養浩館庭園、橘曙覧記念文学館、愛宕坂茶道美術館、グリフィス記念館

2.4 美術館企画展等の開催

世代を超えて気軽に芸術に親しめるよう、時代・地域・分野など美術の多様性を活かした魅力ある企画展（ ）を開催します。各企画展では、展覧会内容に応じた講演会や作品解説会はもちろん、体験型ワークショップ等の関連イベントを多数開催し、その内容を深く理解し楽しめようとするとともに、文化施設や関連した企業等と連携しながら広域的に情報発信を図り、観光誘客に努めます。

また、アトリエ事業では、いつでも気軽に創造的な活動が行えるよう、生活と密着した創造性を養う新しいプログラムを開発して、子どもから高齢者までが楽しめる機会を提供します。

さらに、本市の美術文化の向上を図るため、「市美展ふくい」の開催や、各種団体に展示室等の貸出を行い、市民が芸術活動を発表できる機会を提供します。

企画展入場者数	： 22,410 人（29 年度）	64,000 人（30 年度）
子どもアトリエ開催数	： 9 講座	
市民アトリエ開催数	： 9 講座	
市美展ふくい開催	： 5 月	
総入館者数	： 67,532 人（29 年度）	96,000 人（30 年度）

企画展	「漫画界のレジェンド 松本零士展」	平成 30 年 6 月 2 日～ 7 月 8 日
	「歌川広重の世界展」	平成 30 年 7 月 21 日～ 9 月 2 日
	「ナショナル ジオグラフィック写真展」	平成 30 年 9 月 15 日～ 11 月 4 日
	「画家たちの自画像展」	平成 31 年 2 月 23 日～ 3 月 31 日

2 5 郷土歴史博物館企画展等の開催

郷土の歴史や文化への誇りを育み発信できるよう、文献・考古・美術史という様々な分野から地域の歴史や文化に関わりの深いことや明治 150 年に関連するテーマで、魅力ある企画展（ ）を開催します。また、SNSを活用しての情報発信を行うとともに、福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会文化プログラム事業に参加するなど、広報に努めます。

養浩館との連携はもちろん市内の文化施設との連携や、教育普及活動の充実にも努め、福井の歴史や文化を楽しく学ぶ機会を提供することで、まちなかの観光の推進につなげます。

企画展入場者数	: 23,782 人 (29 年度)	24,700 人 (30 年度)
特別展・企業展ギャラリートークの回数	: 32 回 (29 年度)	33 回 (30 年度)
総入館者数	: 72,227 人 (29 年度)	79,600 人 (30 年度)
収蔵資料数	: 40,984 点 (29 年度)	41,000 点 (30 年度)

企画展

「江戸・京・大坂と城下町福井」	平成 30 年 3 月 24 日～ 5 月 6 日
「大集合！幕末福井の偉人たち」	平成 30 年 7 月 20 日～ 8 月 26 日
「皇室と越前松平家の名宝 - 明治美術のきらめき - 」	平成 30 年 9 月 22 日～ 11 月 4 日
「大安禅寺の名宝」	平成 31 年 3 月 21 日～ 5 月 6 日

2 6 自然史博物館企画展等の開催とセーレンプラネットの運営

郷土の豊かな自然や広大で未知な宇宙・天文について県内唯一の自然科学の総合博物館として興味深く学べる機会を提供し、自然科学への関心を高めてもらえるよう、魅力ある企画展（ ）を開催します。

また、子どもたちが、最先端の研究をしている大学や企業等を訪問し、自然科学が社会に貢献していることを学ぶキャリア教育の機会を提供します。

自然史博物館では、足羽山魅力向上計画の一環として足羽山を訪れる市民や観光客の満足度を高めるためビジターセンターを福井国体・障スポの開催に合わせ整備します。ビジターセンターは、足羽山の自然、文化、歴史のほか飲食店、イベントなどの様々な情報を提供します。また、本館屋上の白山テラスは白山や市街地の眺望を楽しめる休憩スペースとして活用します。

さらに、博物館の耐震化、バリアフリー化は、平成 3 2 年度の完成を目指して、今年度は本館建物の構造計算や整備内容の検討を進めていきます。

セーレンプラネットでは、ドームシアターを活用した魅力的なコンテンツの提供に努め、ハピリンや周辺施設、交通事業者等とイベント等での連携を進めることで、中心市街地のにぎわい創出や観光誘客につなげます。

自然史博物館入場者数	: 20,491 人 (29 年度)	26,000 人 (30 年度)
セーレンプラネット入場者数	: 95,126 人 (29 年度)	127,000 人 (30 年度)
企画展入場者数	: 25,281 人 (29 年度)	27,000 人 (30 年度)
産学連携科学技術キャリア教育事業参加者数	: 108 人 (29 年度)	110 人 (30 年度)

企画展（自然史博物館）

「高浜の化石 - 1600 万年の時を越えた大地の語り部 - 」	平成 30 年 3 月 17 日～5 月 20 日
「世界の大むしむし展 2 ～世界の、福井の昆虫大集合！～」	平成 30 年 7 月 21 日～9 月 2 日
「吉澤特別館長の写真展～東尋坊・雄島・越前松島の魅力～」	平成 30 年 9 月 29 日～12 月 2 日
「自然の色」(仮)	平成 31 年 3 月 23 日～6 月 2 日

企画展（セーレンプラネット）

「～たなばた～」	平成 30 年 6 月 9 日～ 7 月 10 日
「火星～赤い星の謎」(仮)	平成 30 年 7 月 14 日～9 月 2 日
「宇宙国体」(仮)	平成 30 年 9 月 28 日～10 月 29 日
「月の不思議」(仮)	平成 30 年 11 月 7 日～12 月 18 日

2.7 観光と文化の連携強化

地域に埋もれている特色ある歴史・文化資源等を観光資源として活用するモニターツアーを実施します。

また、前年度に引き続き博物館等の情報発信を強化するため、各施設のイベントを集約した博物館だより「ふくミューだより」を発行します。

さらに、市内 11 の施設に入館、入園できる共通観覧券「ふくミューパス」のさらなる周知と利用拡大に努めるとともに、歴史・文化資源を紹介する多言語対応のホームページや V T R を活用し、国内外へ福井の魅力を発信することで、観光誘客を図ります。

加えて、幕末明治福井 150 年記念展や出張博物館など、各施設合同による体験連携事業（ ）を実施します。

歴史・文化資源を活かしたモニターツアーの実施	： 2 回（29 年度）	3 回（30 年度）
ふくミューだより発刊	： 4 回	
体験連携事業の実施		

体験連携事業

歴史や文化、自然など、各博物館等が持つ特色と強みの部分を活かした展示や、ワークショップなどの体験学習等を連携して行う事業